



# 筑紫女学園大学リポジット

## 「CJダイバーシティマンス」報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 筑紫女学園大学 人間文化研究所 公開日: 2024-12-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安恒, 万記, 宇治, 和貴, 渋谷, 登美子, 赤枝, 香奈子, 高木, 佳世子, 金見, 倫吾 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/2000029">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/2000029</a>

# 「CJ ダイバーシティマンス」報告

安 恒 万 記・宇 治 和 貴・渋 田 登美子  
赤 枝 香奈子・高 木 佳世子・金 見 倫 吾

## Report on CJ Diversity Month

Maki YASUTSUNE, Kazutaka UJI, Tomiko SHIBUTA,  
Kanakano AKAEDA, Kayoko TAKAKI and Ringo KANEMI

### はじめに

「CJ ダイバーシティマンス」は、2019年4月の筑紫女学園大学ダイバーシティ推進宣言をうけ、本学のダイバーシティの尊重と推進のため、本学指定研究「筑紫女学園大学におけるマイノリティの包摂と支援のあり方について」研究会（以下、「当研究会」と表記）がダイバーシティ推進会議に提案し、2019年11月に初めて開催したものである。2020年以降は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行によって開催方法の変更や規模の縮小をせざるを得ない時期が続いたが、教職員や学生が企画したダイバーシティ推進イベントを学内外に紹介するものとして、2023年の第5回まで継続して開催した。2024年度も12月に第6回の開催を予定している。

本学が「ダイバーシティ推進宣言」を発表して5年が経過した。この宣言の中では「学内の修学・教育・研究・就業のあらゆる面からジェンダー、年齢、国籍、人種、民族、出自、文化、言語、宗教、障がい、病気、セクシュアリティなどを理由とするあらゆる不自由や差別、排除」を「なくすことを目指します」と表明している。更に「ジェンダー平等の実現はもちろんのこと、病気や障がいがある学生・教職員の支援、文化的多様性や性的多様性を持つ学生・教職員の支援をはじめとして、少数者であるという理由で取り残されることのないキャンパスづくり」を「進めます」と表明している。「推進宣言」であることから、必ずしもすべてが実現されている必要はないのであるが、推進できているかどうかの検証作業は常に必要である。当研究会が、ダイバーシティの尊重と推進のため行ってきた取り組みは「アライ養成講座<sup>i</sup>」を始めさまざまであるが、本稿では特にダイバーシティマンスについて、開催に至った経緯とその概要を振り返り、その成果と課題について整理したい。

## 1. ダイバーシティマンス開催の経緯

当研究会は2017年度に開始したのだが、初年度は研究会メンバー<sup>ii</sup>それぞれが、LGBTを含むマイノリティ学生の支援のあり方について学び、理解を深めることを主な目的として活動した。具体的には、東京レインボープライド期間中に開催された『LGBT×貧困～性的マイノリティが遭遇する困難・ピアサポートの可能性』(5/3)、『トランスジェンダー？性同一性障害？～みんなで語ろう、過去・現在・未来～』(5/5)などのシンポジウムやトーク・イベント、「本願寺派関係学校第43回同和教育研究会」(研究会テーマ「LGBT、性の多様性について～学校現場で考えるべきこと～」6/15-17)、福岡県男女共同参画センターあすばる男女共同参画フォーラム2017プレイベント『LGBTQの学生も安心して学べるキャンパスにするために』(11/18)、ジェンダー法学会第15回学術大会シンポジウム『LGBTI(性的マイノリティ)の権利保障—差別禁止法／理解促進法の動きと今後の課題』(12/3)などに参加し、LGBTに関する研究・調査結果やマイノリティ学生支援の実践例などに関する情報の入手につとめた。同9月にはメンバー全員で国際基督教大学や早稲田大学に視察に行き、大学としてのセクシュアル・マイノリティ学生支援の取り組みについて学んだ。また、学生や教職員がLGBTやSOGIに関する理解を深める機会を提供するため、講師として南和行弁護士を招聘する学内の企画(人権講演会)に協力した。南弁護士は「一橋大学アウトティング事件」の原告側代理人である。また自身が同性のパートナーと「ふうふ夫夫」として暮らしており、セクシュアル・マイノリティに関する裁判の話から自身の私生活まで幅広い話を伺うことができた。2018年2月には、京都で開催されたLGBT A教職員ネットワークの会合に参加した(2/9)。この会合は、関東、関西、北陸など各地の大学でLGBT学生の支援にかかわっている大学教職員が集まり、それぞれの大学の取り組みを紹介したり、関係のある情報を共有する貴重な機会になっており、この年が第2回の開催であった。参加した各大学の教職員と情報交換するとともに、本学におけるマイノリティ支援の取り組みを伝える良い機会にもなった。同じく2018年2月には講師として、菅野優香さん(同志社大学)、森あいさん(同性婚人権救済弁護士)、牧園祐也さん(Haco／認定NPO法人魅力的倶楽部福岡支部、当時)<sup>エキゾチッククラブ</sup>の3人を招いて、公開シンポジウム『クィア／アクティヴィズム』を福岡市人権啓発センターにて開催した。もともとは蔑称でありながら、やがてセクシュアル・マイノリティ自身がプライドをもって自称するようになった「クィア(queer)」という言葉には、ジェンダーやセクシュアリティにかかわる既存の制度や規範を問い直す意味合いがこめられている。本シンポジウムは、クィアをめぐる思考や実践、そこに含まれる先鋭的な問題意識や多様な運動のあり方を振り返りながら、セクシュアル・マイノリティと社会との関係について考えることを目的として開催された。

2018年度は、これまでの研究成果を踏まえ、本学でのマイノリティ学生の包摂と支援の実現に向けた活動を行なった。具体的には以下の通りである。

本学の在籍生による「ろう×セクシュアル・マイノリティ全国大会」の参加報告会を公開研究会として開催した(6/13)。会には研究メンバー以外の教職員や学生も参加し、全国大会の詳細に

加え、ダブルマイノリティに関する知識も得ることができた。またこの会をきっかけに、学内でセクシュアル・マイノリティのサークル作りに関心を持つ学生の集まりが持たれるようになった。学生や教職員が人権に関する理解やハラスメントの知識を深める機会を提供するため、講師として大阪大学の牟田和恵さんを招聘する学内の企画（人権講演会）に協力した。学生支援にかかわるキャンパス・セクハラに関する知見を広げるために、「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク第24回全国集会 in 福岡」（9/1-2）に参加した。9月には、アメリカのサンフランシスコを訪問し、ダイバーシティ推進の状況や先進的なマイノリティ支援のあり方について学ぶとともに、現地の大学や研究・教育機関、浄土真宗センターや北米仏教団、NPOなどとのネットワークを構築した（9/24-30）。またこれに先立って、サンフランシスコでの訪問先の1つであるLGBT歴史協会のジェラード・コスコヴィッチ氏が来日し、福岡で講演を行う機会があり、その講演会に参加した（9/10）。同じく9月には、学長に対して、ダイバーシティ推進宣言の発表を含む「トランスジェンダー学生の受入れの検討についての提言」を行った。その提言から、11月に学長の諮問機関としてダイバーシティ推進会議が発足し、2019年2月にはダイバーシティ推進をテーマとする研修会が開催され（2/13、2/28）、4月にはダイバーシティ推進宣言が発表された。その際、トランスジェンダー女性の学生受け入れに向け、本格的に検討を進めることが学外に向けて公表された。2018年9月および2019年2月には前年度に引き続き、京都で開催された大学教職員LGBTネットワーク交流会に参加した（9/10、2/1）。同じく2月には、マイノリティ学生の支援やジェンダー・セクシュアリティに関する先進的取り組みを行っている大学や研究・教育機関（中京大学、名古屋大学、京都精華大学、同志社大学）を訪問し、ダイバーシティ推進の取り組みや学生支援の環境整備に関する具体的方策についてさらに理解を深めた（2/18-20）。また、大学におけるLGBT支援やダイバーシティ推進の取り組みをテーマとする以下のシンポジウムに参加した。『いま大学で対応するSOGI（性指向・性自認）/LGBT+』（筑波大学東京キャンパス、10/26）、全国ダイバーシティネットワーク組織・大阪大学シンポジウム『挑戦する女性が拓くダイバーシティ時代へ』（2/7）、九州大学地球社会総合科学府第6回フューチャーアジア創生フォーラム『大学におけるLGBTQ+支援—キャンパスの未来を描く』（アクロス福岡、2/23）。そのほか、他の女子大学とのネットワーク形成を進め、「女子大学連携ネットワーク 第2回ミーティング」（京都アカデミアフォーラム in 丸の内、9/11）、女子大学シンポジウム『女子大学の現在、そして未来へ』（京都光華女子大学、3/7）に参加した。

以上のような研究活動の成果として、2018年9月に学長に提出した「トランスジェンダー学生の受入れの検討についての提言」、学長の諮問機関としての「ダイバーシティ推進会議」の発足（同11月）と「筑紫女学園大学ダイバーシティ推進宣言」の発表（2019年4月）などが挙げられる。また、2018年2月の「大学教職員LGBTネットワーク交流会（京都）」において、関西学院大学の「関学レインボーウィーク」での学生の主体的な関わりを喚起した事例についての情報を得たこと、さらに、2017年に視察に行った早稲田大学において、2015年Waseda Vision 150 Student Competitionにて学生による「日本初！LGBTセンター」提案の総長賞受賞、2016年5

月に「第1回 WASEDA LGBT ALLY WEEK」開催、2017年に「スチューデントダイバーシティセンター（SDC）」が開設された<sup>iii</sup>ことなど、学生の活動の可視化を確認できたこと、加えて同年10月の『いま大学で対応する SOGI（性指向・性自認）/LGBT+』（筑波大学東京キャンパス、10/26）において、中央大学のダイバーシティウィーク担当教員から同大学において2018年度よりダイバーシティウィークを開催するという情報を得たことが、「CJ ダイバーシティマンス」の開催へと繋がったのである。2017年度に行った他大学の視察から得られた、大学の建学の精神、理念とダイバーシティ推進との親和性の高さ<sup>iv</sup>は、本学にも共通する。とすると、本学がこれまでに取り組んで来つつも体系的に可視化してこなかったダイバーシティ推進への取り組みを「CJ ダイバーシティマンス」という形で表すことが可能なのではないかと考えたのである。

## 2. CJ ダイバーシティマンスのねらいと特徴

第1章で述べたような経緯で「CJ ダイバーシティマンス」を始めたのだが、それを形作るイベントの一つひとつは、当研究会が企画するのみではなく、学生や学内各センターからのイベント提供がなければ成り立たない。それが、5年間途切れることなく開催できたのは、本学に建学の精神を基礎としたマイノリティ包摂への素地があったことも要因の一つと考えられる。一方、常にその時どきの社会の動きや学生のニーズを捉えたねらいと特徴があったことも、継続のための要因の一つと考えられる。よって本章では、各年度のダイバーシティマンス企画のねらいと特徴を整理することで本学におけるダイバーシティ推進を考察する。

### 2.1. 第1回 CJ ダイバーシティマンス (2019)

第1回 CJ ダイバーシティマンスを企画するにあたって、大学としての公式イベントとしての位置づけを確保するため、当研究会が企画案をダイバーシティ推進会議に諮り、ダイバーシティ推進会議から関係部署長に協力依頼を行うという手順を踏むこととした。この手順を踏まえたことで、各部署が例年行っている企画をダイバーシティマンス開催予定の11月にして貰うよう依頼が可能となり、研究会メンバーと各事務部署や教員、学生団体とで調整し、学内外で開催される13企画が集まった。実はこれらの企画のほとんどは、国際交流センター、女性活躍支援センター、進路支援センター、学生サポートルーム“ラトナ”が毎年各部署で開催していたものを11月開催にしてもらったものであり、ダイバーシティマンスのための新企画は映画上映会と展示企画だけであった。この事実は、例えば進路支援センターと学生サポートルーム“ラトナ”による「合理的配慮を希望する学生のためのキャリアガイダンス」が、本学で長年に亘って取り組んできた障がい学生支援の一部であり、部署が連携して学生をサポートする仕組みが既にできていたことの証ともなった。その意味でも、このダイバーシティマンスを本学でも実施可能ではないか、とのねらいは外れてはいなかったのであろう。加えて、4月のダイバーシティ推進宣言は注目を集め、楠田大蔵太宰府市長が日本で初めて同性パートナーシップ条例を可決した渋谷区男女平等・ダイ

バーシティ推進課長を研修講師として招聘する際に、本学に声をかけてくれたことによって「LGBTは『いない』のではなく『みえていない』だけ」（講師：永田龍太郎さん）が女性活躍支援センター主催の講演会として実現した。その日程は11月5日で「ダイバーシティマンス」期間という重なる縁による賜物であった。また、学生団体“LYKKE（リッケ）”や“Caapa（チャーパ）”、多世代交流チームによる“HO♻️MEかふえ”などのお陰でその内容は多岐に亘り、その形態も講演会や映画上映会、展示など多彩なプログラムとなった。これらの企画の多くは外部の方の参加も可能とし、その広報のため印刷会社に就職していた卒業生にチラシデザインを発注し、学外への広報も積極的に行った。

この卒業生が「CJ ダイバーシティマンス」という企画に対し、喜びと母校への誇りを感じると伝えてくれたことは企画した研究会としても大きな喜びであった。その後ダイバーシティ推進に関する対外的な活動の際に卒業生との喜びのこもった出会いが少しずつ増えていったことから、

表1. 2019年度 第1回CJ ダイバーシティマンス

日時	イベント企画内容	場所	担当
11月4日(月) 10:00~17:00	★九州レインボープライドブース参加	福岡市博多区冷泉公園	学生団体“Caapa(チャーパ)”×博多マルイ
11月4日(月)・5日(火) 10:50~14:40	セカンドハンド~不要子育て用品を~世代へつなぐ~	2号館生活彩家前	学生団体“LYKKE(リッケ)”
11月5日(火) 14:50~16:20	セクシュアリティと多様な生き方を考える講演会「LGBTは『いない』のではなく『みえていない』だけ」 講師：永田龍太郎さん (渋谷区男女平等・ダイバーシティ推進課長)	飛翔会館3F スクワヴァアティーホール	女性活躍支援センター
11月7日(木) 13:30~15:30	合理的配慮を希望する学生のためのキャリアガイダンス	8号館 8102教室	進路支援センター+学生サポートルーム“ラトナ”
11月8日(金) 14:50~16:20	講演「『結婚の自由をすべての人に』九州訴訟について」 講師：徳原聖雨弁護士、緒方枝里弁護士、小野アンリさん(FRENS)	6号館 6101教室	マイノリティの包摂と支援研究会
11月16日(土)	留学生との交流バス研修	下関(海峡館・唐戸市場)門司港レトロ・小倉城	国際交流センター+国際交流学生ボランティア
11月17日(日)	★女性に対する暴力をなくすイベント	筑紫野市役所前広場	安恒ゼミ学生×筑紫野市男女共同参画課
11月21日(木) 13:10~14:40	ジェンダー平等を考える講演会「若手女性の力で未来を切り開く~私から政治へ~」 講師：申琪榮さん(お茶の水女子大学准教授)	飛翔会館3F スクワヴァアティーホール	女性活躍支援センター
11月21日(木) 14:30~16:30	★HO♻️MEかふえ~子どもから大人まで集えるカフェ~	7号館1F カフェテリア	多世代交流プロジェクトチーム
11月22日(金) 16:30~18:25	映画『どんぐりの家』上映会	8号館8302教室	学生サポートルーム“ラトナ”
11月28日(木) 13:10~14:40	映画『カラコエの花』上映会	8号館8103教室	学生団体“Caapa(チャーパ)”
期間	展示企画内容	場所	担当
11月5日(火)~11月29日(金)	LGBT関連図書の展示	4号館図書館 CJ コモンズ	マイノリティの包摂と支援研究会
11月12日(火)~11月29日(金)	MSGの活動紹介と障がい者支援機器の展示	3号館IF(ラトナ前)	学生団体“MSG” 学生サポートルーム“ラトナ”

★は学外の方の参加も可能なもの

大学としてダイバーシティ推進に取り組む先進的な活動が卒業生にも受け入れられていることを実感し、対外的な発信に取り組むきっかけともなった。

## 2.2. 第2回CJダイバーシティマンス (2020)

2020年度は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行によって、それまで毎年行われていた企画も見送りとなった。ダイバーシティマンス自体の開催すら難しい状況ではあったものの、オンライン授業で試行錯誤した経験を活かし ZOOM などを活用して4企画を実現した。なかでも、2020年11月にトランスジェンダー女性受け入れ状況調査のために当研究会が視察訪問した宮城学院女子大学で面談した学生サークル「にじいろプロジェクト@MGU」との縁によって、本学LGBTアライ学生団体Caapa (チャーパ) とのオンライントークセッションを五十嵐ゆりさん (本学「マイノリティを生きる」非常勤講師) のコーディネートで新企画として開催することができたことは大きな成果であった。また、仏教研修生による「多様性を考える映画上映会」企画が登場し、コロナ禍において学生の活動が制限される中、少数ではあるが学生たちの活動に助けられたダイバーシティマンスでもあった。なお、11月は事務部署、教員ともに次年度事業計画や研究費申請などの業務が集中するため、2020年度から12月へと開催時期を変更した。

表2. 2020年度 第2回CJダイバーシティマンス

日程	イベント企画内容	場所	担当
12月10日 (木) 13:10~14:40	合理的配慮を希望する学生のためのキャリアガイダンス	8号館 8102教室	進路支援センター 学生サポートルーム “ラトナ”
12月7日(月)~25日(金) 月・木・金	★多様性を考える映画上映・意見交換会 上映作品 第1週『マルガリータで乾杯を!』 第2週『ボヘミアン・ラプソディ』 第3週『ピリブー未来への大逆転』	8号館8205教室・ 飛翔会館3F スクワーヴァティール ホール	仏教研修生 インド映画を見る会
12月23日 (水) 15:30~17:00	★『オンライントークセッション 五十嵐ゆり×にじいろプロジェクト@MGU×Caapa』 ファシリテーター: 五十嵐ゆりさん (NPO法人Rainbow Soup 理事長、本学非常勤講師)	ZOOM	学生団体 “Caapa (チャーパ)”
12月25日 (金) 14:00~15:30	★ダイバーシティマンス オンライン講演会「恋愛相談屋さんが語る性のこと、自分のこと」 講師: あかたちかこさん	ZOOM	マイノリティの包摂 と支援研究会

★は学外の方の参加も可能なもの

## 2.3. 第3回CJダイバーシティマンス (2021)

2021年度は、コロナ禍でのソーシャルディスタンスが定着し、会場を工夫しながらの開催が可能となった年でもあった。学内外での学生の活動も増え、学外に公開するイベントも復活し、全部で11企画となった。特筆すべきは、新規企画として英語学科の「INDONESIAN DANCE EVENT」のように、学科からの申し出企画が加わったことである。各部署が長年に亘って行ってきた講演会などのイベントを“ダイバーシティを知る・体感するイベント”という特色を持たせて集めたダイバーシティマンスの試みが、少しずつ認知されてきた証であろう。

セクシュアル・マイノリティ関連図書の展示を行った第1回ダイバーシティマンスに引き続き、第3回ダイバーシティマンスでは、内容を障がい者、バリアフリー関連図書展示として行った。また、人権委員会と連携し、「ダイバーシティを推進するための人権講演会」と名称を改め、後期の人権講演会をダイバーシティマンスに開催してもらうことが実現し、「ユニバーサルデザインとトイレ」（講師：金沢大学准教授 岩本建良さん）の開催を支援した。

表3. 2021年度 第3回CJダイバーシティマンス

日程	企画内容	場所	担当
12月	CJレインボーマッピング		学生団体 "Caapa (チャーパー)"
12月3日(金) 15:00~16:10	★映画『I Am Here ~私たちはともに生きている~』 上映会	飛翔会館3F スクワーヴァティー ホール	女性活躍支援センター
12月3日(金) 16:30~18:00	★講演会「トランスジェンダーへの差別と《当事者》 によるアクティビズム」 講師：浅沼智也さん（看護師/映画監督）・菅野優香 さん（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ 研究科教員）	飛翔会館3F スクワーヴァティー ホール	女性活躍支援センター
12月10日、17日、 24日（金曜日） 15:00~	多様性を考える映画上映会 ①『リリーのすべて』 ②『ビリーバー 未来への大逆転』 ③『ボヘミアン・ラブソング』	8号館8202教室・ スクワーヴァティー ホール	仏教研修生・インド映 画を見る会
12月4日(土) 18:00~21:00	「生理の貧困」～女性を取り巻く環境について考える ～	警固公園	学生団体 "LYKKE (リッケ)"
12月6日(月)~10日(金) 15:00~18:00	★留学生との文化交流イベント	7号館Café	国際交流センター
12月10日(金) 16:30~18:00	★INDONESIAN DANCE EVENING	飛翔会館3F スクワーヴァティー ホール	英語学科
12月16日(木) 13:10~14:50	★生き方をデザインするキャリアガイダンス	8号館 8202教室	学生サポートルーム "ラトナ"
12月22日(水) 16:30~18:00	ダイバーシティを推進するための人権講演会「ユニ バーサルデザインとしてのトイレの未来」 講師：岩本建良さん（金沢大学准教授）	飛翔会館3F スクワーヴァティー ホール	人権委員会
期間	展示企画内容	場所	担当
12月7日(火)~17日(金)	ダイバーシティ関連図書の展示	4号館図書館 CJ コモンズ	マイノリティの包摂と 支援研究会

★は学外の方の参加も可能なもの

## 2.4. 第4回CJダイバーシティマンス (2022)

2022年度は、学生サークル企画が順調に継続し、前年度に引き続き英語学科からのインドネシア企画が継続した一方、各種センター企画のイベントがダイバーシティマンスに集められず、全部で9企画であった。しかしながら、2021年度に引き続き人権委員会と連携し、後期の人権講演会をダイバーシティマンスにあて、濱口瑛士さん（画家）による「発達障害は個性か否か」と題した人権講演会開催を支援した。ディスレクシアという文字の読み書きを苦手とする画家の繊細な絵や書籍は、スクワーヴァティーホールのホワイトエに展示され、講演会に参加した多くの学生が書籍を手に取り、講演会終了後もサインを求める学生の列が見られた。加えて、ドリアン・ロ



ロブリジーダさん（ドラッグクイーン）による「ドリアンと考える“ふつう”と“らしさ”」と題したショー&講演会は、会場での質問が多く飛び交い、講演会終了後のホワイエは学生とドリアンさんとの写真撮影会と化した。ドラッグクイーンであるドリアンさんのSNSに学生たちが共感をもって日常的にアクセスしている状況が伺え、若い世代のセクシュアル・マイノリティへの理解の浸透を見ることができた。また、学生団体“LYKKE（リッケ）”が第3回から引き続き行った「生きづらさを抱える少女の居場所づくり」（警固公園）や『『生理の貧困』～女性を取り巻く環境について考える～』などのイベントは、女子大学である本学の学生が、困難な状況にある女性への深いまなざしを持って取り組む活動であり、年間を通して行われている継続的な活動の一部を紹介するものとなった。

表4. 2022年度 第4回CJダイバーシティマンス

日程	企画内容	場所	担当
12月	CJレインボーマッピング		学生団体 “Caapa（チャーパ）”
11月30日（水） 16：30～18：00	ダイバーシティを推進するための人権講演会 「発達障害は個性か否か？」 講師：濱口瑛士さん（画家）	飛翔会館3F スクワーヴァアティー ホール	人権委員会
12月3日（土） 14：50～18：00	★「生きづらさを抱える少女の居場所づくり」	警固公園	学生団体 “LYKKE（リッケ）”
12月6日（火） 12：00～13：00	「生理の貧困」～女性を取り巻く環境について考える～	7号館前広場	学生団体 “LYKKE（リッケ）”
12月8日（木） 14：50～16：20	「男性学・男性学研究から考えるジェンダー平等～多様性を活かす組織と働き方」 講師：伊藤公雄さん（京都産業大学客員教授、ダイバーシティ推進室長）	飛翔会館3F スクワーヴァアティー ホール	女性活躍支援センター
12月10日（土） 10：30～14：00	★「Mari kita mencobal 多様性の国インドネシアを体感する音楽・舞踊ワークショップ」	飛翔会館カフェテリア スクワーヴァアティー ホール	英語学科
12月7日（水） 14：50～18：00	インドの競争社会・教育から多様性を考える映画上映会	飛翔会館3F スクワーヴァアティー ホール	仏教研修生 インド映画を見る会
12月14日（水） 14：50～18：00	「深層的ダイバーシティ」を考える映画上映会	8号館 8103教室	
12月21日（水） 14：50～18：00	多様性（カースト問題）を考える映画上映会	飛翔会館3F スクワーヴァアティー ホール	
12月14日（水） 16：30～18：00	「ドリアンと考える“普通”と“らしさ”」ショー&講演会 講師：ドリアン・ロブリジーダさん（ドラッグクイーン）	飛翔会館3F スクワーヴァアティー ホール	マイノリティ支援とダイバーシティ推進研究会
期間	展示企画内容	場所	担当
12月7日（火）～17日（金）	ダイバーシティ関連図書の展示	4号館図書館 CJ コモンズ	マイノリティ支援とダイバーシティ推進研究会

★は学外の方の参加も可能なもの

## 2.5. 第5回CJダイバーシティマンス（2023）

2019年の開始から5回目となる2023年度CJダイバーシティマンスは、英語学科から2企画、現代社会学科と女性活躍支援センターとの共催企画、現代社会学科コラボゼミ学生によるジェンダー

関連図書展示など、ダイバーシティマンス企画の広がりを見ることができ、過去最多の15企画であった。また、第2回以降仏教研修生企画のみであった映画上映会に女性学研修生企画が加わり、『ビリーブ 未来への大逆転』を公開企画とし、外部からの参加者も受け入れた。第4回に引き続き、ドリアン・ロドリゲスさん（ドラッグクイーン）による「ドリアンと考える“ふつう”と“らしさ”」と題したショー&講演会を開催し、学生や教職員のみならず、保護者や卒業生などの参加があった。第3回から引き続き人権委員会との連携で行った後期人権講演会は、李琴峰さん（芥川賞作家）による講演会「虹で世界を彩れ：LGBTQ+ 過去・現在・未来」として開催し、ダイバーシティを推進するための人権講演会としての位置づけが定着しつつある。この企画が実

表5. 2023年度 第5回CJ ダイバーシティマンス

日程	企画内容	場所	担当
12月1日(金) 12:50~14:00	★「ウクライナ・キウウを取材して」 講師：松田幸三さん (FM「Air Station Hibiki」パーソナリティー/元毎日新聞記者)	4号館図書館 プレゼンテーションコート	国際交流センター
12月6日(水) 13:30~15:00	ダイバーシティを推進するための人権講演会 「虹で世界を彩れ：LGBTQ+ 過去・現在・未来」 講師：李琴峰さん (芥川賞作家)	飛翔会館3F スクワアティールホール	人権委員会
12月7日(木) 13:45~17:00	スポーツとジェンダーについて考える映画上映会	7号館人間文化研究所	仏教研修生 インド映画を見る会
12月9日(土) 10:00~12:00	里親会「クリスマス会」	福岡児童相談所	学生団体 “LYKKE (リッケ)”
12月13日(水) 17:20~19:00	「ドリアンと考える“普通”と“らしさ”」ショー&講演会 講師：ドリアン・ロドリゲスさん (ドラッグクイーン)	飛翔会館3F スクワアティールホール	マイノリティ支援とダイ バーシティ推進研究会
12月14日(木) 15:30~17:00	「なぜ今、世界でダイバーシティ推進が必要か？ ~積水ハウスのダイバーシティ推進~」 講師：秋山寿美江さん (積水ハウスダイバーシティ推進部 スペシャリスト)	飛翔会館3F スクワアティールホール	ダイバーシティ推進会議 女性学研究室共催
12月14日(木) 11:30~13:30	女性教職員支援ブラウンバッグ・ランチミーティング	飛翔会館3階会議室	女性学研究室
12月14日(木) 13:45~17:00	身分制度と貧困について考える映画上映会	7号館人間文化研究所	仏教研修生 インド映画を見る会
12月18日(月) 17:20~19:00	卒業生講演会「私の困り感について」 講師：卒業生	1号館1205教室	英語学科 アダチ徹子先生
12月19日(火) 13:10~15:10	★映画上映会『ビリーブ-未来への大逆転-』	4号館図書館 プレゼンテーションコート	女性学研究室 女性学研修生
12月19日(火) 15:30~17:00	★「アフガニスタンにおける女性支援～干ばつ。まずは水と食料を！～」 講師：藤田千代子さん (ベシワール会 PMS 総院長補佐 / 本学客員教授)	飛翔会館3F スクワアティールホール	女性活躍支援センター 現代社会学科共催
12月21日(木) 13:00~17:00	留学生との交流会 「外国料理パーティ」	3号館調理実習室	国際交流センター
1月※	文学部共通科目「異文化探求PBL」受講学生（1年生）による多文化体験ワークショップ	8号館8205、8204教室、 3号館調理実習室、4 cafe、7号館レストラン	英語学科 山田直子先生
12月23日(土) 11:00~14:00	「みんなの居場所！子ども食堂」	筑女の森 BBQ場	学生団体 “LYKKE (リッケ)”
期間	展示企画内容	場所	担当
12月5日(火)~ 27日(金)	ジェンダー関連図書の展示	4号館図書館 CJ コモンズ	現代社会学科 “DEI コ ラボゼミ” 学生 女性学研究室

★は学外の方の参加も可能なもの

※当初12月22日開催予定であったが、諸般の事情により1月となった。

現した背景には、2022年度に初めて行った「第1回シドニー研修～ダイバーシティ先進国・体感ツアー」のリンクツアーに李琴峰さんが参加されており、本学学生とのゆるやかな交流があった。また、ダイバーシティマンスの認知度アップとともにその企画数も増え内容も多彩となり、女性学研究室による女性教職員支援のための「ブラウンバッグ・ランチミーティング」やダイバーシティ推進会議と女性学研究室共催の講演会「なぜ今、世界でダイバーシティ推進が必要か？～積水ハウスのダイバーシティ推進～」など教職員支援の新企画や企業による寄付講演が行われたものの、十分な参加者を得られなかったことは、大きな課題として残った。

### 3. まとめ～CJダイバーシティマンスの未来に向けて

2019年からの5回に亘って行ってきたCJダイバーシティマンスについて振り返る作業は、本学のダイバーシティ推進を確認する作業でもあった。関西学院大学、早稲田大学、中央大学のダイバーシティウィークに着想を得た「CJダイバーシティマンス」であるが、本学の各部署で既にあるイベントを集めて“ダイバーシティを知る・体感するイベント”という特色づけをしてダイバーシティ推進を可視化することに特別な困難は生じなかった。それは、①本学が「障害者差別解消法」(2016年施行)の10年以上前から聴覚障害学生への支援を学生がピアサポートという形で提供し(2004年)、その後の情報保障への道筋をつけてきていたこと、②「LGBT理解増進法」(2023年施行)の5年前からLGBTアライサークルが活動し始めたことの2つが大きな要因だと考えられる。いずれも、本学の学生の持つ共感力とそれを形にする行動力の成果である。表6は他大学のHPをもとにダイバーシティウィークについてまとめたものである。2010年代後半から開催大学が増え続けており、2020年代に入ってから、企業においてもダイバーシティウィーク

表6. ダイバーシティウィーク開催大学

大学名	名 称	2023年度開催日	所管部署	開始年
関西学院大学	関学レインボーウィーク	5/15-19	人権教育研究室	2013
国際基督教大学	R-weeks (Rainbow weeks)	5/30-6/15	ジェンダー研究センター	2013
早稲田大学	WASEDA LGBTQ+ALLY WEEKS	11/27-12/8	GSセンター	2016
上智大学	ソフィア・ダイバーシティ・ウィーク	11/25-12/10	ダイバーシティ推進室	2017
中央大学	ダイバーシティウィーク	11/10-28	ダイバーシティセンター	2018
慶応義塾大学	協生環境推進ウィーク	12/8-26	協生環境推進室	2020
千葉商科大学	ダイバーシティウィーク	11/20-24	千葉商科大学ダイバーシティ推進委員会	2021
東京都立大学	ダイバーシティウィーク	6/5-9	ダイバーシティ推進室	2021
法政大学	ダイバーシティウィーク	11/20-12/2	DEIセンター	2022
流通経済大学	ダイバーシティウィーク	7/3-8	ダイバーシティ共創センター	2023
甲南大学	KONAN カラーウィーク	12/19-1/18	学生生活支援センター	2023

※上智大学は「女性に対する暴力撤廃デー」(11/25)から開始

※中央大学と法政大学は2023年度は連携開催

(出所：各大学HPより筆者作成)

の開催が相次いでおり、ダイバーシティ推進を組織に可視化する手段としてダイバーシティウィークが定着しつつある現状がうかがえる。大規模な共学大学が並ぶ中、小規模な女子大学である本学が2019年からダイバーシティマンスを企画し開催し続けていることは、この学生たちの力があってこそ稀有な事例であろう。

一方で、ダイバーシティマンスに関して少しずつ学内認知が進み、学科や教員からの自主企画の申し出が増えているものの、内容の関連する授業科目での振り替えや参加の呼びかけをもってしても講演会等への参加者の確保が難しいものもある。企業が女性の働き方への支援を模索し、女性社員の確保に向けて女子大学に熱い視線と連携への関心が注がれているがゆえに実現した積水ハウスの講演の例など、寄付講座として講演会が開催できる機運を逃さず連携を模索し続けるためにも、学内参加者の数という分かり易い数字をもって関心の高さを示すことは重要であろう。

また、世界全体がジェンダー平等の実現へ大きく舵を取り、多くの企業がDEI推進に力を入れつつも、依然として日本社会におけるジェンダー格差は大きく、女子大学が女性をエンパワーする組織であることの意義は揺るぎなく大きなものである。主として正課外での取り組みである「CJダイバーシティマンス」以外にも学部・学科・コースのカリキュラムにあるダイバーシティ関連科目を横断して可視化する仕組みづくりと、正課内外での連携も必要であり、ダイバーシティマンスだけでなく年間を通して通奏低音のように流れる、全学をあげてのダイバーシティ推進と尊重への取り組みがより重要であろう。

本学では2022年度より「女性学研究室」が設置され、当研究会は「ジェンダー教育・研究」と「ダイバーシティ教育・研究」のうち、後者のダイバーシティ教育・研究を担う研究会と位置づけられ、その責任が明確化された。そうした状況を受け、2023年度より「筑紫女学園大学におけるマイノリティ支援とダイバーシティ推進のあり方について」研究会（以下、ダイバーシティ研究会）へとシフトチェンジした。このことによって、当研究会ではより幅広い課題を扱いながら、本学におけるダイバーシティ推進に取り組むことを目指したいと考える。

筑紫女学園大学ダイバーシティ推進宣言は、浄土真宗の教えを建学の精神とする女子大学である本学の理念を反映したものである。宇治（2019）は、“現在の状況のなかで、「マイノリティ」を包摂し、多様性のある社会を作りだす拠点でありたいという、本学の「願い」が、ダイバーシティの「推進を宣言」する形で表明された”と述べ、“私たちが「ダイバーシティ推進」という「願い」を託された一人ひとりとして、「自らを見つめ、自らを信じて未来へと歩む行動力ある人と」なろうと願うこと”<sup>vi</sup>が私たちのあり方ではないか、と指摘している。本学は建学の精神に基づいてダイバーシティ推進宣言をしている。つまり、本学に存在する学生や教職員は「ダイバーシティを推進したいという願いを背負うべき人」ということになる。本学に所属する限りダイバーシティ推進は、他所事として済まされるものではなく、推進主体の当事者なのである。

その意味でも「CJダイバーシティマンス」は、ダイバーシティ推進へと歩み続ける本学の学生・教職員である私たち一人ひとりが表現し、参加するものでありたいとの願いを込めて結論としたい。

## 注

- <sup>i</sup> 宇治和貴、洪田登美子、赤枝香奈子、高木佳世子、安恒万記（2024）「アライ養成講座報告」『筑紫女学園大学紀要 第19号』
- <sup>ii</sup> 2017年度の研究会メンバーは、赤枝香奈子、宇治和貴、高木佳世子、安恒万記、武田陽子であり、2018年度には洪田登美子と金見倫吾が加わった。
- <sup>iii</sup> 安恒万記、赤枝香奈子、洪田登美子、宇治和貴（2019）「筑紫女学園大学におけるマイノリティの包摂と支援のあり方について（その1）」『筑紫女学園大学人間文化研究所年報 第30号』P200
- <sup>iv</sup> 安恒万記、赤枝香奈子、洪田登美子、宇治和貴（2019）「筑紫女学園大学におけるマイノリティの包摂と支援のあり方について（その1）」『筑紫女学園大学人間文化研究所年報 第30号』P203
- <sup>v</sup> この様子は「虹に彩られる季節（前編）」（『すばる2023年9月号』）と「虹に彩られる季節（後編）」（『すばる2023年10月号』）に書かれている。
- <sup>vi</sup> 安恒万記、赤枝香奈子、洪田登美子、宇治和貴（2019）「筑紫女学園大学におけるマイノリティの包摂と支援のあり方について（その1）」『筑紫女学園大学人間文化研究所年報 第30号』P207

## 【付記】

本論文は、2017年～2023年度筑紫女学園大学特別研究助成（指定研究）を受けて行われた成果の一部である。

（やすつね まき：現代社会学科 教授）

（うじ かずたか：心理・社会福祉専攻 教授）

（しぶた とみこ：本学非常勤講師）

（あかえだ かなこ：追手門学院大学 教授）

（たかき かよこ：心理・社会福祉専攻 教授）

（かねみ りんご：本学非常勤講師）